

令和8年度 国語科「現代の国語」シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科1年1～7組 国際人文科8組
教科書	『精選現代の国語』（東京書籍）	副教材等	最新国語便覧(浜島書店)・漢字ボックス(浜島書店)

1 学習の到達目標

<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
--

2 学習の計画

月	育成する資質能力	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価材料
4	表現に即して評論を読み、言葉やコミュニケーションに関心を持つ	「まだ知らない自分に出会う」	・本文全体を通じて「まだ知らない自分に出会う」とはどのようなことか理解する。 ・自分の体験をもとに話し合う。	対話についての考え方に注意しながら、本文を通読する。 筆者の考える読書が、どのようなものであるかを理解する。 「対話は不完全なコミュニケーションだ。」といえる理由を理解し、まとめる。本文の論旨をもとに「まだ知らない自分に出会う」機会について読み取り、まとめる。	<行動の観察/記述の確認/定期考査>
5		『僕たちの「センス・オブ・ワンダー」』	・具体例に注意しながら評論を読み、「行為」と「知覚」の関係について考える。	「行為」と「知覚」の関係に注意しながら、本文を通読する。 評論の読み方のポイントを押さえる。評論で論じられている内容の理解を深めるために現代の問題に関心を持ち、自分自身のこととして積極的に向き合う姿勢を養う。 筆者が体験した「身体の行為とともに立ち上がる庭の風景」について読み取り、まとめる。	<行動の観察/記述の確認/定期考査>
中間考査					
6	文章の構成や展開に注意して、筆者の主張を正確に読み取る。	「小説との対話、対話としての小説」	・挙げられている例に注意しながら筆者の主張を読み取り、読書の在り方について考えを深める。	タイトルの意味に着目して全文を通読する。 「小説との対話」と「現実の人間との対話」の相違点と類似点を理解する。 「羅生門」の冒頭部分と作品全体について、筆者が考える、小説における「自問自答」の効果を理解する。 「言葉」が「対話し合う」という表現に着目し、小説が成立する過程で生じる「自問自答」について読み取る。 小説に対する筆者の考えを捉え、読者と小説の関係について理解する。	<行動の観察/記述の確認/定期考査>
7		「水の東西」	・比較を通じて粘り強く「東西」の文化の差異への理解を深める。	日本人が噴水を作らなかった理由をつかみ、「鹿おどし」（日本人）と「噴水」（西洋人）の水に対する捉え方の違いを理解する。水に対する日本人の感性を筆者の考え方に沿って捉え、日本人の感性の特質と「鹿おどし」の関係を理解する。	<行動の観察/記述の確認/定期考査>
期末考査					
9	テキスト（音声、文字、映像等を含む）の内容や展開、それらに含意された意味を、論理や既有知識に基づいて、吟味、補足、精緻化を行い、解釈する力を養う。	「言葉は『ものの名前』ではない」	・言語と認識の関係について、具体例をもとに主張している評論を読み、言葉の働きについて考える。	言葉と「もの」の関係に注意しながら、本文を通読する。 第一段を読んで、「ギリシャ以来の伝統的な言語観」がどのようなものかを理解する。 第二段第一節を読んで、「羊」や「悪魔の魚」の例をもとに、「ギリシャ以来の伝統的な言語観」の問題点を理解する。 第二段第二節を読んで、具体例をもとに、言葉の「意味の	<行動の観察/記述の確認/定期考査>
10		「時間と自由の関係について」	・取り上げられたテーマについて、関心を持つ。 ・文章の概要をつかみ、対比的な考え方が論じられていることを理解し、全体の構成と展開を把握する。	筆者が二種類の「時間の自由」、また「二つの時間」について論じていることを理解しながら、本文を通読する。二種類の「時間の自由」を説明し、「外部化された時間」とは何かを確認する。現代人の時間の在り方について、筆者がどのように捉えているのかを説明する。「自由」とは何かを改めて考え、人間の自由と時間の関係について考える。	<行動の観察/記述の確認/定期考査>
中間考査					

11	既成の概念と異なる新しい問いを立てたり、他者と異なる発想や主張を独自の論理や表現によって確立したりする力を養う。	「真の自立とは」 「共鳴し引き出される力」	・文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解する。 ・積極的に現代の状況に関心を持ち、筆者が述べる内容を理解し、自分の考えを深める。 ・「ラディカルな発想の転換」について理解する。 ・第二段の「能力」についての筆者の疑問と「『共鳴』」の感覚について理解する。	筆者の主張する「自立」について、現代社会で混同して使われている「独立」という言葉との違いも踏まえて読み取る。現代における「古い」や「『大人』になること」について、筆者の言う「自立」という観点から考える。 筆者の「能力」の捉え方に注意しながら、本文を通読する。「三角ロジック」の考え方で意見を整理する方法を理解し、「共鳴し引き出される力」では、どのような具体例をデータとして用い、どのように「理由付け」をしているかを分析する。	<行動の観察/記述の確認/定期考査> <行動の観察/記述の確認/定期考査>
12			期末考査		
1	他の構成・表現形式と比較しながら、その妥当性や効果を評価する力、表現行為を行いながら、相手の反応や状況に応じてより良いものに改善する力を養う。	「『無駄』と進化」	・粘り強く筆者が挙げた事例の意味を読み解き、今までの学習を生かして筆者の意図を正しく理解しながら、自分の考えを	「現代の進化学」の教えと、「通常イメージされている、適応的な進化」との違いを理解しながら、筆者が考える「『無駄』な変異」を起こし、それを「許容すること」の大切さと、その理由を読みとる。放射線に強い細菌が、放射線量の高い場所に住んでいるわけではないことを、筆者が強調する理由を理解しながら、「生命という現象」についての考えを読み取る。	<行動の観察/記述の確認/定期考査>
2		「人工知能はなぜ椅子に座れないのか」	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。	コミュニケーションに関する、「クロード・エルウッド・シャノンらの考え方」とはどのようなものかを読み取り、まとめる。「特徴を表現するという方法」に欠けている「重要な視点」とは何か、また、それが「『意図』」についての理解」とどのように結び付いているかを読み取る。	<行動の観察/記述の確認/定期考査>
3			期末考査		

3 評価の観点

知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。
思考・判断・表現	<p>【話す・聞く能力】</p> <p>目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討することができる。</p> <p>【書く能力】</p> <p>・目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にすることができる。</p> <p>・調べたことを整理して、報告書や説明資料などにまとめる。</p> <p>・読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度を考えて、文章の構成や展開を工夫できるようになる。</p> <p>【読む能力】</p> <p>目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めることができる。</p>
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。

4 評価の方法

「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に取り組む態度」の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

「現代の国語」は、高等学校の「国語」の基本的な知識を身につける科目です。作品や課題に積極的かつ主体的に取り組み、自己の能力の可能性を見出してください。そして、実践的な表現活動ができるよう幅広い知識を身につけましょう。

令和8年度 国語科「 言語文化 」シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科・国際人文科 1年 1～8組
教科書	高等学校 精選言語文化(第一学習社)	副教材等	最新国語使覧(浜島書店) 完全マスター 古典文法(第一学習社) イラストとシーンでおぼえるLOOK@古文単語337 (啓隆社)

1 学習の到達目標

<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
--

2 学習の計画

月	育成する資質・能力	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価材料
4	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	古文の学習	・ 古文を学習する意義を知り、今後の学習に生かそう。	・ 我が国の言語文化についての理解を深めるために古典の世界に親しむことの意義を知る。 ・ 我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを継承していくことについて強く自覚をもとうとしている。	行動の観察 記述の確認 定期考査
5	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	羅生門(芥川龍之介)	・ 近代の代表的な小説を読み、基本的な読解方法を習得しよう。 中間考査	・ 下人の行動や心理をもとに場面の展開を捉え、老婆の語る論理が下人の決断に与えた影響を読み取る。 ・ 小説という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確に捉える。	行動の観察 記述の確認 定期考査
6	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	児のそら寝 古文を読むために1	・ 古文に親しみをもち、話のおもしろさを理解しよう。	・ 古典の文章に慣れるとともに、現代に通じる話のおもしろさや人間描写の巧みさを知る。 ・ 主として歴史的仮名遣いや古今異義語について、文語のきまりを理解する。	行動の観察 記述の確認 定期考査
7	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	漢文に親しむ 故事成語 「蛇足」	・ 漢文を学習する意義を知り、今後の学習に生かそう。 期末考査	・ 漢文を訓読するための基礎知識として、返り点の種類と使い方、助字のはたらき意味再読文字の種類と読み方を習得する。	行動の観察 記述の確認 定期考査
9	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	なよ竹のかぐや姫	・ 古文に親しみ、話の構成や展開を把握しよう。	・ 用言の活用について理解し、学習の見直しをもって活用形を調べようとしている。 ・ 古典特有の世界観に慣れるとともに、千年以上前に作られた物語が現代まで継承されていることを知る。	行動の観察 記述の確認 定期考査
10	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	故事成語 「狐借虎威」	・ 漢文訓読の基本事項を確認し、故事成語に関心を持つよう。 中間考査	・ 故事成語の由来となった話を読み、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。	行動の観察 記述の確認 定期考査

11	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	伊勢物語	・歌物語の特徴と読み解き方を理解しよう。	・歌物語では感動の中心が歌にあることを理解し、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。	行動の観察 記述の確認 定期考査
12	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	短歌「ゆびさきの温かみを」	・短歌の鑑賞のしかたを理解し、近代を代表する人の作品を味わおう。 期末考査	・我が国の言語文化に特徴的な、短歌の表現の技法とその効果について理解する。 ・短歌の形式や表現を進んで理解し、学習の見通しをもって短歌文芸に親しむ。	行動の観察 記述の確認 定期考査
1	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	徒然草	・古文の随筆を読み、人間・社会などに対する作者の考え方を読み取ろう。	・文章の内容を構成や展開に即して的確に捉える。 ・助動詞について理解し、口語訳に生かす。	行動の観察 記述の確認 定期考査
2	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	十八史略「完璧」	・史伝という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 期末考査	・史伝の舞台となる時代背景を知るとともに、作中に描かれた蘭相如の考えや人物像を読み取る。	行動の観察 記述の確認 定期考査
3					

3 評価の観点

知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。
思考・判断・表現	【話す・聞く能力】 目的や場面に応じて、的確に話を聞き取ったり、自分の考えを深め、発展させている。 【書く能力】 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 【読む能力】 現代文・古文・漢文の文章を、的確に読み取ったり、目的に応じて深く読んだりして、自分の考えを発展させている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身に付けるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守ってほしい事項など）

高等学校の「国語」の基本的な知識を身につける科目です。作品や課題に積極的かつ主体的に取り組む、自己の能力の可能性を見出してください。そして、実践的な表現活動ができるよう幅広い知識を身につけましょう。

単位数	2単位	学科・学年・学級	1年1～8組
教科書	高等学校 新地理総合(帝国書院)	副教材等	新詳高等地図(帝国書院)、新詳地理資料COMPLETE2024(帝国書院)

1 学習の到達目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
第1学期	4	第1部 地図でとらえる現代世界 第1章 地図と地理情報システム 第2章 結び付きを深める現代世界	1節 地球上の位置と時差 2節 地図の役割と種類	●日常生活の中でみられるさまざまな地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解する。 現代世界のさまざまな地理情報について、地図や地理情報システムなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付ける。 ●地図や地理情報システムについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ●地図や地理情報システムについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	●日常生活の中でみられるさまざまな地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解している。 現代世界のさまざまな地理情報について、地図や地理情報システムなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付けている。 ●地図や地理情報システムについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ●地図や地理情報システムについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
	5		1節 現代世界の国家と領域 2節 グローバル化する世界 序説 生活文化の多様性 1節 世界の地形と人々の生活 中間考査		
第1学期	6	第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解	2節 世界の気候と人々の生活 追究事例 自然1 乾燥した大陸と太平洋の島々での生活 -オセアニア- 追究事例 自然2 モンスーンの影響を受ける地域での生活 -東南アジア- 3節 世界の言語・宗教と人々の生活 追究事例 宗教1 イスラームと人々の生活の関わり -中央アジア・西アジア・北アフリカ- 追究事例 宗教2 ヒンドゥー教と人々の生活の関わり -インド-	●現代世界の地域構成を示したさまざまな地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きなどについて理解する。 ●現代世界の地域構成について、位置や範囲などに着目して、主題を設定し、世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察し、表現する。 ●現代世界の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	●現代世界の地域構成を示したさまざまな地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きなどについて理解している。 ●現代世界の地域構成について、位置や範囲などに着目して、主題を設定し、世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察し、表現している。 ●現代世界の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
	7		期末考査		
学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
第2学期	9	4節 歴史的背景と人々の生活 追究事例 歴史1 移民の歴史と人々の生活の関わり -ラテンアメリカ- 追究事例 歴史2 植民地支配の歴史と人々の生活の関わり -サハラ以南アフリカ- 追究事例 歴史3 国家体制の変化と人々の生活の関わり -ロシア- 5節 世界の産業と人々の生活 追究事例 産業1 産業力が世界の生活文化に与える影響 -アメリカ合衆国- 追究事例 産業2 経済成長による人々の生活の変化 -東アジア- 追究事例 産業3 地域統合が人々の生活や産業に与える影響 -ヨーロッパ-	●世界各地の多様な環境の下で育まれてきた生活文化は、さまざまな出来事を積み重ねることによって変化を遂げてきた。このような歴史的な背景は、人々の生活文化にどのような影響を与えてきたのだろうか。 ・ラテンアメリカには、さまざまな地域の人々が移り住んできた。多様な文化の融合によって、どのような生活文化が形成されてきたのだろうか。 ・サハラ以南アフリカでは、植民地支配を受けた国が多い。植民地支配の歴史と人々の生活文化や産業は、どのように関わっているのだろうか。 ・ロシアはかつて社会主義国だったが、1990年代に国家体制が変化し、現在は新しい国づくりを進めている。国家体制の変化は、人々の生活や社会にどのような影響を与えたのだろうか。 ●人々は、地域の自然環境などを生かして産業を発展させてきた。産業の発展は、人々の生活にどのような影響を与えてきたのだろうか。また、産業のグローバル化によって、人々の生活はどのように変化してきたのだろうか。 ・アメリカ合衆国では、世界標準の工業製品が生み出されたり、世界の食を支える農産物が生産されたらしている。この国の産業は、人々の生活にどのような影響を与えているのだろうか。 ・東アジアは第二次世界大戦後に急速に経済成長が進んだ地域である。中国や韓国などでは、どのような生活文化がみられ、経済成長の影響を受けて、どのように変化しているのだろうか。 ・ヨーロッパでは、二度の世界大戦を機にEUを中心とした政治・経済の統合が進められている。EUの統合によって、ヨーロッパの人々の生活文化はどのように変化してきたのだろうか。	●歴史文化に形成した歴史的背景、冷戦時代の体制が生活に与える影響について理解している。 ●歴史文化に形成した歴史的背景、冷戦時代の体制が生活に与える影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ●歴史文化に影響した歴史的背景、冷戦時代の体制が生活に与える影響について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ●人々の工業と農業の発展、農産物の生産性、農業の近代化との関係について理解している。 ●人々の工業と農業の発展、農産物の生産性、農業の近代化との関係について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ●人々の工業と農業の発展、農産物の生産性、農業の近代化との関係について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ●工業の発展と生活の変化、工業地域の地域差について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ●工業の発展と生活の変化、工業地域の地域差について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ●産業活動のグローバル化と人々の生活への影響、脱工業化社会と人々の生活について理解している。 ●産業活動のグローバル化と人々の生活への影響、脱工業化社会と人々の生活について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ●産業活動のグローバル化と人々の生活への影響、脱工業化社会と人々の生活について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	
	10				中間考査

第2学期	11	第2章 地球的課題と国際協力	1節 複雑に絡み合う地球的課題	<p>●世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解する。</p> <p>世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取り組みや国際協力が必要であることなどについて理解する。</p> <p>●世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>●地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。</p>	<p>●世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解している。</p> <p>世界各地でみられる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取り組みや国際協力が必要であることなどについて理解している。</p> <p>●世界各地でみられる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>●地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p>
	12		2節 地球環境問題		
			期末考査		
学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
第3学期	1	第3部 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災	1節 日本の自然環境	<p>●我が国をはじめ世界で見られる自然災害や生徒の生活圏で見られる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解する。</p> <p>さまざまな自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的技能を身に付ける。</p> <p>●地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>●自然環境と防災について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。</p>	<p>●我が国をはじめ世界でみられる自然災害や生徒の生活圏でみられる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解している。</p> <p>さまざまな自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的技能を身に付けている。</p> <p>●地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>●自然環境と防災について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p>
	2		2節 地震・津波と防災		
	3		3節 火山災害と防災		
			学年末考査		

3 評価の観点

知識・技能	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
思考・判断・表現	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深める。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

「地理総合」では、身近な地域や日本各地、世界各地で生起しているさまざまな地理的事象について、「主題」や「問い」を設定し、生徒が「主体的」・「対話的」に学ぶことが求められています。面白いと感じたこと、興味が湧いたことを深く追究し、自らの意見や考えを持ち、他者に発信することや共有することを習慣化できるようにしましょう。

令和8年度 公民科 「 公共 」 シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科・1年・1～7組 国際人文科・1年・8組
教科書	新版 公共 (数研出版)	副教材等	スームアップ 公共資料 2026 (実教出版)

1 学習の到達目標

現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、公正に判断する力や、議論する力を養う。またよりよい社会の実現を視野に、国民主権を担う公民として自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
第1学期	4	第1章公共的な空間をつくる私たち	第1節青年期と自己形成 第2節人間としての自覚 第3節日本人としての自覚	・青年期は自立や自律をはかる重要な時期であることを理解する。 ・先哲の思想や宗教が自分自身の生き方に与えている影響を考察する。 ・古代・中世・近世・近代の日本の思想家の思想内容を主体的に追究する。	・よりよく生きることについての自覚を深められている。 ・自己形成の課題について考察できている。 ・生活文化や伝統が自分自身の生き方に与えている影響について気付くことができている。
	5	第2章公共的な空間における人間としてのあり方 生き方	第1節西洋近現代の思想 第2節現代の諸課題と倫理	・先人の生き方を通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方が考察する。 ・選択・判断の手掛かりとなる考え方を理解する。 ・地球環境問題、資源・エネルギー問題、生命科学や情報技術の進展などの事象について理解する。	・近世・近代・現代の世界の思想家の思想内容が理解できている。 ・選択・判断の手掛かりとなる考え方を理解し身につけようとしている。 ・選択・判断の手掛かりとなる考え方をを使って、現代の諸課題を主体的に追究できている。
			第3章公共的な空間における基本原理	第1節民主社会の基本原理 第2節日本社会の基本原理 中間考査	・法などの社会規範の役割を理解し、日常生活と関連づけて考察する。 ・日本国憲法で保障されている権利を理解する。 ・国際情勢の変化にともない、日本の平和主義のあり方がどう変化していったのか考察する。
第1学期	6	第4章現代の民主政治と政治参加の意義	第1節日本の政治機構 第2節政治参加と民主政治の課題	・日本国憲法に見られる三権相互の関係とそれぞれの役割を理解する。 ・行政機能拡大の是非について主体的に考察する。 ・選挙制度によって政党政治の形態が変化することに気付き、主権者として参加しようという意欲を持つ。 ・政党の役割を理解する。 ・日本の政治について課題を発見し、解決する見通しが持てる。 ・地方自治の現状と課題を理解する。	・日本国憲法に見られる三権相互の関係とそれぞれの役割が理解できている。 ・行政機能拡大の是非について主体的に考察できている。 ・選挙のしくみが理解できている。 ・住民投票など身近な地域で行われている例を調べ、報告できている。 ・模擬投票などの実施により、政党や選挙を身近に捉えることができている。
	7	第5章現代の経済社会と経済活動のあり方	第1節経済のしくみと市場機構 期末考査	・現代の企業の果たしている役割が理解する。 ・市場経済のメカニズムを理解する。 ・需給曲線を使って、どのような場合に価格が変動するの考察する。 ・市場機構だけでは解決できない経済的課題も多く、市場機構を修正している具体例を指摘でき、自らの生活と結び付けて経済と接する。	・市場経済のメカニズムが理解できている。 ・現代の資本主義経済でケインズ主義の有効な部分と改善すべき部分が判断できている。 ・市場機構だけでは解決できない経済的課題も多く、市場機構を修正している具体例を指摘でき自らの生活と結び付けて経済と接することができている。
第2学期	9	第5章現代の経済社会と経済活動のあり方	第2節財政と金融 第3節日本経済の発展と変化	・政府が経済に果たしている役割を理解する。 ・金融・財政のしくみを理解し、経済状況に応じて適切な手段を提示する。 ・GDP が大きいことが豊かさにつながるのかどうか、豊かさについて自分で判断する。 ・戦後日本経済のあゆみを理解する。	・政府が経済に果たしている役割を理解できている。 ・金融・財政のしくみを理解し、経済状況に応じて適切な手段を提示できている。 ・不況や好況など景気の先行きを判断でき、自ら経済の動向を予測できている。 ・消費税や所得税などの税金の使途に関心が持てている。
	10	第5章現代の経済社会と経済活動のあり方	第4節豊かな生活と福祉の実現 中間考査	・経済社会に主体的に生きる一員として、今後の日本経済について見通しをたてる。 ・私法・契約の原則やその修正について理解する。 ・公害がなぜ発生したのかを考察する。 ・雇用・労働問題や社会保障・福祉の課題について主体的に追究する。	・産業構造の変化と職業選択との関係や、中小企業や農業の果たしている役割と現状を理解できている。 ・経済のサービス化が進展し、国民生活にどのような変化をもたらしたか考察できている。 ・経済社会に主体的に生きる一員として、今後の日本経済について見通しがたてられている。

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等	
第2学期	11	第6章国際社会の動向と日本の役割	第1節国際政治の動向 第2節国際政治の課題と日本の役割 第3節国際経済の動向と国際協力	<ul style="list-style-type: none"> 国際法の意義や国際紛争を解決する機関の役割が理解する。 国際連盟・国際連合の組織と役割が理解する。 国連の現状と課題について考察する。 民族紛争や難民問題など国際政治問題について関心を持つ。 発展途上国の現状を知り、貧困や飢餓などの克服のために自らがどのようなことができるか考察する。 国際社会の課題について主体的に追究する。 外務省や国連のホームページなどを参照し、国際社会や各国の課題を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 国際法の意義や国際紛争を解決する機関の役割が理解できている。 冷戦の成立とその終結後の国際政治の流れが理解できている。 集団的安全保障がなぜ有効なのか考察できている。 国際社会のなかで戦後日本の歩みを考察し、将来の展望を持てている。 核軍拡から核軍縮への流れが理解できている。 現代の世界の紛争や人権問題について理解できている。 円高などの為替相場の変動が経済にどのような影響を与えるのか考察できている。 	
	12					期末考査
学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等	
第3学期	1	持続可能な社会づくりの主体となる私たち	課題探究の観点 課題探究の手引き	<ul style="list-style-type: none"> 現代社会の諸問題の解決のために、事実を基に協働して考察、構想する。 さまざまな課題の中で、自己とのかかわりに注目して主体的に課題を選択し、探究する。 現代社会の諸問題について、探究するための資料を収集・選択し、的確に分析する。 現代社会の特質から生じる価値の対立について、討論やディベートなどさまざまな方法を活用して主体的に探究する。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代社会の諸問題について、その問題の所在、現状、問題点などが理解できている。 現代社会の諸問題の解決のために、事実を基に協働して考察、構想することができている。 さまざまな課題の中で、自己とのかかわりに注目して主体的に課題を選択し、探究できている。 それぞれが選択した課題について、今後も継続して探究しようという意欲を持つことができている。 	
	2					学年末考査
	3					

3 評価の観点

知識・技能	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。
思考・判断・表現	現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。
主体的に学習に取り組む態度	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身に付けるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守ってほしい事項など)

「公共」では、政治・社会の主体となる不可欠な知識を学び、そのための能力を身に付けることを目指しています。そして授業のみならず、本やテレビや新聞やインターネット等で新しい情報を積極的に取り入れ、リテラシー (その分野の知識や能力のこと) を身につけましょう。

令和8年度 数学科 「数学Ⅰ」 シラバス

単位数	3単位	学科・学年・学級	普通科 1年1組～7組 国際人文科 8組
教科書	改訂版 高等学校 数学Ⅰ (数研出版)	副教材等	改訂版 4プロセス 数学Ⅰ (数研出版)

1 学習の到達目標

数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
1 学期	4	第1章 第1節 式の計算	1. 多項式の加法と減法 2. 多項式の乗法 3. 因数分解	式を、目的に応じて1つの文字に着目して整理したり、1つの文字におき換えたりするなどして既に学習した計算の方法と関連付けて、多面的に捉えたり、目的に応じて適切に変形したりする力を培う。	定期考査 授業での行動観察 授業ノート 問題集ノート 課題プリント 小テスト
	5	第2節 実数	4. 実数 5. 根号を含む式の計算	中学校までに取り扱ってきた数を実数としてまとめ、数の体系についての理解を深める。その際、実数が四則演算に関して閉じていることや、直線上の点と1対1に対応していることなどについて理解するとともに、簡単な無理数の四則計算ができるようにする。	など
		第3節 1次不等式	6. 不等式の性質 7. 1次不等式 8. 絶対値を含む方程式・不等式	不等式の解の意味や不等式の性質について理解するとともに、不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察したり、具体的な事象に関連した課題の解決に1次不等式を活用したりする力を培う。	
			中間考査		
	6	第3章 第1節 2次関数とグラフ	1. 関数とグラフ 2. 2次関数のグラフ	2次関数の値の変化やグラフの特徴を理解するとともに、2次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察する。	
	7	第3章 第2節 2次関数の値の変化	3. 2次関数の最大・最小 4. 2次関数の決定	2次関数のグラフを通して関数の値の変化を考察し、2次関数の最大値や最小値を求めることができるようにする。	
			期末考査		
学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
2 学期	9	第3章 第3節 2次方程式と 2次不等式	5. 2次方程式 6. 2次関数のグラフとx軸の位置関係 7. 2次不等式	2次方程式や2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求められるようにする。	定期考査 授業での行動観察 授業ノート 問題集ノート 課題プリント 小テスト
	10		中間考査		など

	1 1	第4章 第1節 三角比	1. 三角比 2. 三角比の相互関係 3. 三角比の拡張	三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比の相互関係などを理解できるようにする。また、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、三角比を活用して問題を解決する力を培う。	
	1 2	第2節 三角形への応用	4. 正弦定理 5. 余弦定理 6. 正弦定理と余弦定理の活用 7. 三角形の面積 8. 空間図形への活用 期末考査	図形の構成要素間の関係を、三角比を用いて表現し定理や公式を導く力、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、正弦定理、余弦定理などを活用して問題を解決したりする力を培う。	
学期	月	单元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
3 学期	1	第5章	1. データの整理 2. データの代表値 3. データの散らばりと四分位数 4. 分散と標準偏差 5. 2つの変量の間関係 6. 仮説検定の考え方	データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する力、目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現する力、不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりする力を養う。	定期考査 授業での行動観察 授業ノート 問題集ノート 課題プリント 小テスト など
	2				
	3	第2章	1. 集合 2. 命題と条件 3. 命題と証明 学年末考査	集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用できるようにする。	

3 評価の観点

知識・技能	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
思考・判断・表現	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。
 評価の中心は、定期考査の点数(素点)になります。しっかり定期考査前はテスト範囲の勉強に取り組み1点でも高い点数を取るようになしてください。
 その他各教科担当者から定期考査毎に提出物の指示があります。プリントやワークなど、提出指示があったものは必ず忘れずに提出するようにしてください。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

授業に必要なもの
 1. 教科書 2. 授業用ノート 3. 4プロセス数学I+A問題集・解答 4. 問題集用ノート 5. 筆記用具
 ※教科担当者によって授業用ノート、問題集用ノートの代わりにプリントを活用する先生もいますので、その場合は、各自紙ファイルの購入をしてください。
 中学校時代に数学が苦手だった人も丁寧に一から学び直せばすぐに得意教科になります。難易度の高い問題にはセンスが必要なものもありますが、多くの問題はセンスよりも反復が必要です。繰り返し問題を解き、全員数学が得意と呼べるようになりましょう!

令和8年度 数学科 「数学A」 シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科 1年1組～7組
教科書	改訂版 高等学校 数学A (数研出版)	副教材等	改訂版 4プロセス 数学A (数研出版)

1 学習の到達目標

図形の性質、場合の数と確率について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
1 学期	4	第1章 場合の数と確率 1節 場合の数	1. 集合の要素の個数	場合の数を求めるときの基本的な考え方についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	定期考査 授業での行動観察 授業ノート 問題集ノート 課題プリント 小テスト など
	5		2. 場合の数 3. 順列 4. 組合せ 中間考査		
	6	2節 確率	5. 事象と確率	確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	
	7		6. 確率の基本性質 期末考査		
学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
2 学期	9		7. 独立な試行の確率	試行の独立について理解を深め、反復試行の確率や条件付き確率を求められるようにする。	定期考査 授業での行動観察 授業ノート 問題集ノート 課題プリント 小テスト など
	10		8. 条件付き確率 9. 期待値 中間考査		
	11	第2章 図形の性質 1節 平面図形	1. 三角形の角の二等分線と辺の比	平面図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	
	12		2. 三角形の外心・内心・重心 3. チェバの定理・メネラウスの定理 4. 円に内接する四角形 5. 円と直線 6. 2つの円 7. 作図 期末考査		

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
3 学期	1	2節 空間図形	8. 直線と平面 9. 空間図形と多面体	空間図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	定期考査 授業での行動観察 授業ノート 問題集ノート 課題プリント 小テスト など
	2	第3章 数学と人間の活動	1. 約数と倍数 2. 素数と素因数分解	整数の性質について理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	
	3		3. 最大公約数・最小公倍数 4. 整数の割り算 5. ユークリッドの互除法 6. 1次不定方程式 7. n進法 8. 整数の性質と人間の活動 9. 座標の考え方 10. ゲーム・パズルの中の数学		
			学年末考査		

3 評価の観点

知識・技能	図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
思考・判断・表現	図形の構成要素間関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

4 評価の方法

<p>知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。</p> <p>評価の中心は、定期考査の点数（素点）になります。しっかり定期考査前はテスト範囲の勉強に取り組み1点でも高い点数を取るようになしてください。</p> <p>その他各教科担当者から定期考査毎に提出物の指示があります。プリントやワークなど、提出指示があったものは必ず忘れずに提出するようにしてください。</p>
--

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

<p>習熟状況や進度状況により、学習時期が前後する場合があります。発展的な関連する内容を取り扱うこともある。</p> <p>授業に必要なもの</p> <p>1. 教科書 2. 授業用ノート 3. 4プロセス数学I+A問題集(解答) 4. 問題集用ノート 5. 筆記用具</p> <p>※教科担当者によって授業用ノートの代わりにプリントを活用する先生もいますので、その場合は、各自紙ファイルの購入をしてください。</p> <p>中学校時代に数学が苦手だった人も丁寧に一から学び直せばすぐに得意教科になります。難易度の高い問題にはセンスが必要なものもありますが、多くの問題はセンスよりも反復が必要です。繰り返し問題を解き、全員数学が得意と言えるようになりますように！</p>

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科・1年・1～7組
教科書	高等学校 新化学基礎 (第一学習社)	副教材等	改訂 ネオパルノート化学基礎 (第一学習社)

1 学習の到達目標

基礎的な化学の知識（言葉や記号など）を身につけ、基本的な化学的概念や原理を学ぶ。
また自然現象を化学の立場から理解し、実際の現象を実験し観察することによって直に触れ、より一層の理解を深める。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
第1学期	4	第1章 物質の構成 第1節 物質とその構成要素	①物質の分離(1) ②物質の分離(2) ③物質を構成する元素 ④成分元素の確認 ⑤原子のなりたち ⑥同位体とその利用 ⑦原子の電子配置 ⑧元素の周期律と周期表	<ul style="list-style-type: none"> 物質は混合物と純物質、化合物と単体などに分類されることを学び、元素について理解する。また、成分元素の確認法を学習する。 原子の構造について理解し、同位体とその利用を学習する。 原子の電子配置とその表し方（電子式）を学習する。 元素の周期律を理解し、周期表の成り立ちを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 ノート提出 実験報告書 小テスト 定期考査
	5		中間考査	教科書P. 14-45	・定期考査
	6	第2節 物質と化学結合	①イオン(1) ②イオン(2) ③イオン結合 ④イオンからなる物質	<ul style="list-style-type: none"> イオンの種類とその生成について学習する。 イオン結合、組成式を理解し、イオン結晶とその利用を学ぶ。 共有結合と分子の形成について学習する。 分子の構造にもとづく分類と極性について学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 ノート提出 実験報告書 小テスト
	7		⑤共有結合(1) ⑥共有結合(2) ⑦分子の極性 ⑧分子間に働く力 ⑨分子からなる物質 ⑩共有結合の結晶 ⑪金属結合と金属結晶	<ul style="list-style-type: none"> 分子結晶と種々の気体、有機化合物、高分子について学習する。 おもな共有結晶について学習する。 金属結晶について学び、各結晶の一般的性質を比較する。 おもな金属の利用について学習する。 	・定期考査
第2学期	9	第II章 物質の変化 第1節 物質と化学反応式	①原子量 ②分子量・式量 ③物質(1) ④物質(2) ⑤溶解と濃度 ⑥溶解度 ⑦化学変化と化学反応式	<ul style="list-style-type: none"> 元素の原子量を理解し、分子量、式量の求め方を学習する。 物質と粒子の数、質量との関係を学習する。 物質と気体の体積の関係を学習し、空気の平均分子量を理解する。 質量パーセント濃度と質量モル濃度を学習する。 溶解度を学習し、再結晶の原理を理解する。 状態変化と化学変化の違いを理解し、化学反応式の作り方を学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 ノート提出 実験報告書 小テスト
	10				

第2学期			中間考査	教科書P. 80-113	・定期考査
	11	第2節 酸・塩基とその反応	⑧化学反応式と量的関係(1) ⑨化学反応式と量的関係(2) ⑩化学反応における諸法則 ①酸と塩基 ②酸・塩基の強弱と水素イオン濃度 ③水素イオン指数pH ④中和と塩 ⑤中和の量的関係 ⑥中和滴定 ⑦中和滴定とpHの変化 探究活動	・化学反応式と粒子の数、質量、気体の体積の関係を学習する。 ・過不足がある化学反応について学習する。 ・化学反応における諸法則を学習する。 ・酸と塩基の定義を理解する。 ・酸・塩基の強さと水素イオン濃度との関係を理解する。 ・水素イオン指数について学習する。 ・中和と中和によって生じる塩について学習する。 ・中和とその量的関係について学習する。 ・中和滴定の操作を習得し、中和滴定曲線を理解する。 ・中和滴定について、観察・実験を通して探究し、実験技能の習得や理解を図る。	・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・実験報告書 ・小テスト
12			期末考査	教科書P. 116-141	・定期考査
学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
第3学期	1	第3節 酸化還元反応	①酸化と還元 ②酸化数と酸化還元反応 ③酸化剤・還元剤と金属のイオン化傾向 ④酸化還元反応の利用 ⑤電池 ⑥電気分解	・酸化と還元の定義を理解する。 ・酸化数を学習し、酸化剤と還元剤の反応を理解する。 ・酸化剤と還元剤の反応と金属のイオン化傾向を理解する。 ・酸化還元反応の利用例として、製錬や電池の原理を学習する。	・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・実験報告書 ・小テスト
	2		探究活動	・金属のイオン化傾向について、観察・実験を通して探究し、実験技能の習得や理解を図る。	
	3			学年末考査	教科書P. 142-167

3 評価の観点

知識・技能	物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、身に付けている。 物質とその変化に関する観察、実験などを行い、基本的操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
思考・判断・表現	物質とその変化の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
主体的に学習に取り組む態度	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心を持ち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

化学は積み重ねの学問で、一つ一つは易しいのですが三つ四つと重なると分からなくなります。例えば、化学反応では化学式、化学反応式、分子量、式量、物質質量などと、様々な知識の利用が要求されます。前時に学習した内容を整理して授業に臨むことで、理解度が大きく変わります。予習よりも復習に使う時間を多く取って下さい。

単位数	2 単位	学科・学年・学級	普通科・1年次・1～7組
教科書	高等学校 地学基礎 改訂版 (啓林館)	副教材等	センサー地学基礎 4th Edition (啓林館)

1 学習の到達目標

日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解する。
 科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。
 観察、実験を行い、科学的に探究する力を養う。
 地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
第1学期	4	第1部 地球の構造と活動 第1章 地球の構造	1 地球の概観 2 地球の内部構造	<ul style="list-style-type: none"> 地球の概観について学ぶ。 地球の内部構造について理解する。 プレートと地球の活動について学ぶ。 地質構造、変成岩の形成について理解する。 教科書p4～39	行動観察 小テスト レポート分析
	5	第2章 活動する地球	1 プレートテクトニクスと地球の活動 中間考査		
	6	第2章 活動する地球	2 地震 3 火山活動		
7	第2部 大気と海洋 第1章 大気の大気構造	1 大気圏 2 対流圏における水と気象 期末考査	<ul style="list-style-type: none"> 大気の大気構造、水と気象の関係について学ぶ。 教科書p40～90		
第2学期	9	第2部 大気と海洋 第2章 太陽放射と大気・海洋の運動	1 地球のエネルギー収支 2 大気の大循環 3 海水の循環	<ul style="list-style-type: none"> 地球全体のエネルギー収支について理解し、大気の大循環や海洋の循環について学ぶ。 日本で見られる冬、春、夏、秋の季節の気象について学ぶ。 教科書p91～127	行動観察 レポート分析 小テスト
10	第3章 日本の天気	1 日本の気象に变化をもたらす要因 2 冬の天気 3 春の天気 4 夏の天気 5 秋の天気 中間考査			
	11	第3部 移り変わる地球 第1章 宇宙と地球	1 宇宙の誕生 2 太陽系の誕生	<ul style="list-style-type: none"> 宇宙のはじまりの様子や太陽系の誕生、および太陽系の各天体について学ぶ。 堆積岩とその形成や地層について学び、地球の歴史の組み立てについて理解する。 古生物の変遷と地球環境の変化について学ぶ。 教科書p128～209	行動観察 小テスト レポート分析
	12	第2章 地球史の読み方 第3章 地球と生命の進化	1 地層の形成 2 地層の読み方 3 地質年代の区分 1 先カンブリア時代 2 顕生代 期末考査		
第3学期	1	第4部 自然との共生	1 地球環境と私たち 2 地震災害・火山災害 3 気象災害 4 災害と社会 5 地球環境の変化 学年末考査	<ul style="list-style-type: none"> 地球環境に及ぼす人間活動の影響について理解し、日本の自然災害と防災について学ぶ。 教科書p210～241	行動観察 レポート分析 小テスト

3 評価の観点

知識・技能	地球や地球を取り巻く環境について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。地球や地球を取り巻く環境に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
思考・判断・表現	地球や地球を取り巻く環境に関する事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導きだした考えを的確に表現している。
主体的に学習に取り組む態度	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境について関心を持ち、意欲的に探究しようとするとともに、地学的な事物・現象を一連の時間の流れの中で捉えるなど、科学的な見方や考え方を身に付けている。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

地学基礎では、地球と宇宙に関する自然現象について、幅広く学んでいきます。扱う内容は、空間的にも時間的にもスケールが多岐にわたります。日頃から、天気予報、地震、火山、宇宙開発や環境問題等に関する番組や新聞記事、書籍等に親しむようにしましょう。

科学的思考力を重視して授業を行います。自分の考えは根拠を持って表現しましょう。

時間を守る、他人の話を聞く、必要なものを全てそろえる、必要のないものはしまう、などの基本的な学習態度を保ちながら1年間仲間と協力して学習を進めていきましょう。

令和8年度松戸市立松戸高等学校 保健体育「 体育Ⅰ 」

単位数	2	学科・学年・学級	普通科 1年1～7組 国際人文科 1年8組
教科書	現代高等保健体育（大修館書店）	副教材	

1. 学習の到達目標

- ①自らの健康・安全を確保し、学習に自主的に取り組める。
 ②自己の課題に応じ、運動の行い方の改善すべきポイント見つけて適切な練習方法を選ぶことができる。
 ③中学時代に身につけた技能や動きをより高め、運動の特性に応じた、種目特有の技能を身につけることができる。
 ④技術の名称や行い方、体力の高め方について理解できる。

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4	体育理論	体育理論（入学年次） 1. スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展	・スポーツの歴史的発展と多様な変化 ・現代のスポーツの意義や価値	・体育理論新聞 ・行動観察 ・ワークシート分析
5	陸上競技	陸上競技	< 競争(短距離走・リレー) > ・50m走（タイムトライアル） ・走フォームとストライド、ピッチ ・バトンパス ・リレー（タイムトライアル） < 競争(ハードル走) > ・ハードリング動作とインターバルの走り ・ハードル走（タイムトライアル） < 跳躍(走り幅跳び) > ・助走と踏み切り ・着地動作 < 跳躍(走り高跳び) > ・助走と踏み切り ・空中動作 ・着地動作 < 投てき(ハンドボール、ジャベリック) > ・フォーム 学習の振り返り	・記録計測 ・行動観察 ・行動観察 ・記録計測 ・行動観察 ・記録計測 ・行動観察 ・行動観察 ・行動観察 ・行動観察 ・行動観察 ・行動観察 ・行動観察 ・行動観察 ・行動観察 ・学習カード分析
6	球技	テニス	・ラリーによるウォーミングアップ ・基本的な個人技術（サービス、ストローク、ドロップ、ボレー） ・実践練習（シングルス、ダブルス） ・戦術およびルール・審判法について学ぶ ・試合（リーグ戦の運営について話し合う） ・学習の振り返り	・行動観察 ・行動観察 ・行動観察 ・行動観察 ・行動観察 ・学習カード分析
9	体育理論	体育理論（入学年次） 1. スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展	・スポーツの経済的効果と高潔さ ・スポーツが環境や社会にもたらす影響	・体育理論新聞 ・行動観察 ・ワークシート分析

	体づくり運動	体づくり運動（長縄）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 試しの長縄跳び ・ リズムよく跳ぶ ・ 縄の回し方と跳び方 ・ 声かけ ・ クラスの課題発見 ・ 体力の限界に挑戦する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 記録計測 ・ 行動観察 ・ 行動観察 ・ 行動観察 ・ 学習カード分析 ・ 記録計測
10	球技	バレーボール	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボールを使ったウォーミングアップ（リフティング・直上パス） ・ 基本的な個人技術（パス、アタック、サーブ） ・ 対人練習（1対1、2対2、3対3） ・ 攻撃の戦術についての話し合い ・ 試合（ルールを学ぶ） ・ 学習の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行動観察 ・ スキルテスト ・ 行動観察 ・ 行動観察 ・ 行動観察 ・ 学習カード分析
11	球技	ハンドボール	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボールを使ったウォーミングアップ ・ 個人技術（パス、ドリブル、ジャンプシュート） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行動観察 ・ 学習カード分析
12			<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団技能（3対2 3対3 4対3） ・ 試合 ・ 学習の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スキルテスト ・ 学習カード分析 ・ スキルテスト ・ 学習カード分析
1	陸上競技	陸上競技（長距離）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 準備運動 ・ ペース走 ・ 時間走 ・ タイムトライアル ・ 距離走 ・ 整理運動、ストレッチ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行動観察 ・ 行動観察 ・ 記録計測 ・ 記録計測 ・ 記録計測 ・ 行動観察
2				
3				

3. 評価の観点

知識・技能	各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
思考・判断・表現	運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

4. 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から総合的に評価する。

5. 担当者からのメッセージ（確かな学力を身に着けるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

<ul style="list-style-type: none"> ①安全面には特に配慮し、事故が起こらないように注意してください。 ②服装や貴重品の管理等の日常的な注意事項を遵守してください。 ③時間を守り集合・整列してください。 ④自ら学ぶことが上達のポイントです。積極的に体を動かしましょう。
--

令和8年度松戸市立松戸高等学校 保健体育「 体育Ⅱ 」

単位数	1	学科・学年・学級	普通科 1年1～7組 国際人文科 1年8組
教科書	現代高等保健体育（大修館書店）	副教材	

1. 学習の到達目標

<p>①自らの健康・安全を確保し、学習に自主的に取り組める。</p> <p>②自己の課題に応じ、運動の行い方の改善すべきポイント見つけて適切な練習方法を選ぶことができる。</p> <p>③中学時代に身につけた技能や動きをより高め、運動の特性に応じた、種目特有の技能を身につけることができる。</p> <p>④技術の名称や行い方、体力の高め方について理解できる。</p>
--

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4	体育理論	体育理論（入学年次） 1. スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの歴史的発展と多様な変化 ・現代のスポーツの意義や価値 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育理論新聞 ・行動観察 ・ワークシート分析
5	武道	・剣道	<ul style="list-style-type: none"> ・礼法・所作 ・構え・足掻き ・基本の技と受け方（面・小手・胴・小手面・小手胴） ・胴・垂の着装 ・引き技と受け方（引き面・引き小手・引き胴） ・すり足でのパターン練習 	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 行動観察 行動観察 行動観察 行動観察 スキルテスト
6		・柔道	<ul style="list-style-type: none"> ・礼法・所作 ・柔道着の着方 ・補助運動（柔軟運動・補強運動） ・受け身の基本（後受身・横受身・前回り受身） ・受け身の応用（後受身・横受身・前回り受身） ・学習の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 行動観察 行動観察 スキルテスト スキルテスト 学習カード
7				
9	体育理論	体育理論（入学年次） 1. スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの経済的効果と高潔さ ・スポーツが環境や社会にもたらす影響 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育理論新聞 ・行動観察 ・ワークシート分析
10	体づくり運動	長縄	<ul style="list-style-type: none"> ・試しの長縄跳び ・リズムよく跳ぶ ・縄の回し方と跳び方 ・声かけ ・クラスの課題発見 ・体力の限界に挑戦する 	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 行動観察 行動観察 行動観察 行動観察 記録計測
11	球技	ソフトボール	<ul style="list-style-type: none"> ・キャッチボール ・トスバッティング ・守備練習（基本練習） ・守備練習（シートノック） ・打撃練習（基本練習） ・打撃練習（実践打撃） ・試合（審判法を学ぶ） ・ゲーム（試合） ・学習の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・行動観察 ・スキルテスト ・学習カード分析 ・スキルテスト ・学習カード分析 ・スキルテスト ・行動観察 ・学習カード分析
12				
1				
2				
3				

3. 評価の観点

知識・技能	各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
思考・判断・表現	運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

4. 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から総合的に評価する。

5. 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

- ①安全面には特に配慮し、事故が起こらないように注意してください。
- ②服装や貴重品の管理等の日常的な注意事項を遵守してください。
- ③時間を守り集合・整列してください。
- ④自ら学ぶことが上達のポイントです。積極的に体を動かしましょう。

令和8年度松戸市立松戸高等学校 保健体育「保健」

単位数	1	学科・学年・学級	普通科 1年1～7組 国際人文科 1年8組
教科書	現代高等保健体育（大修館書店）	副教材	現代高等保健体育ノート（大修館書店）

1. 学習の到達目標

①テーマについて関心をもち、学習活動に意欲的に取り組むことができる。 ②課題解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、総合的に考え、判断し、それらを表すことができる。 ③テーマについての基礎的な事項を理解できる。
--

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4	安全な社会生活	事故の現状と発生要因	事故とその被害、発生要因についての理解	行動観察 ワークシート分析
		安全な社会の形成	自他の安全を確保するための行動と安全を確保する社会の取り組みに関する理解	行動観察 ワークシート分析
5		交通における安全	交通事故防止のための取り組み、交通事故と運転者の責任に関する理解	行動観察 小テスト
		応急手当の意義とその基本	応急手当の意義やその手順についての理解	行動観察 ワークシート分析
6		日常的な応急手当	日常的なけがの応急手当、熱中症の応急手当についての理解	行動観察 ワークシート分析
		心肺蘇生法	心肺蘇生法の原理と意義、心肺蘇生法の各手順についての理解	行動観察 小テスト
7	現代社会と健康	健康の考え方と成り立ち	健康についての多様な考え方と健康の成り立ちとその要因についての理解	行動観察 ワークシート分析
		私たちの健康のすがた	わが国における健康水準の変化、健康問題の変化についての理解	行動観察 ワークシート分析
9		生活習慣病の予防と回復	生活習慣病とその種類と各要因に関する理解、また予防と回復についての理解	行動観察 ワークシート分析
		がんの原因と予防	がんの種類と原因に関する理解、また予防についての理解	行動観察 小テスト
		がんの治療と回復	がんの治療と緩和ケア、生活の質についての理解、がんとともに生きる社会づくりの理解	行動観察 ワークシート分析
		運動と健康	健康からみた運動の意義、健康づくりのための運動習慣の形成についての理解	行動観察 ワークシート分析
10		食事と健康	健康的な食生活の重要性と意義、健康的な食生活習慣の形成についての理解	行動観察 ワークシート分析
		休養・睡眠と健康	健康からみた休養・睡眠の意義、健康からみたよりよい休養・睡眠のとり方についての理解	行動観察 小テスト
		喫煙と健康	喫煙の健康影響、喫煙開始の要因と依存性、日本や世界のたばこ対策についての理解	行動観察 ワークシート分析
11		飲酒と健康	飲酒による健康への短期的および長期的影響、飲酒の開始要因と社会問題、飲酒による健康被害を防ぐさまざまな対策についての理解	行動観察 ワークシート分析
		薬物乱用と健康	薬物乱用や薬物依存による健康への悪影響、薬物乱用の開始要因と社会問題、薬物乱用による健康被害を防ぐためのさまざまな対策についての理解	行動観察 小テスト

12	精神疾患の特徴	精神疾患の要因と種類に関する理解、精神保健に関する今日的課題への理解	行動観察 ワークシート分析
	精神疾患の予防	日常生活における精神疾患の予防と早期発見・早期治療に関する理解	行動観察 ワークシート分析
	精神疾患からの回復	専門家による精神疾患の治療と支援、社会環境整備に関する理解	行動観察 小テスト
1	現代の感染症	感染症は、時代や地域によって、社会環境や自然環境の影響を受け、発生や流行に違いがみられることについての理解	行動観察 ワークシート分析
	感染症の予防	感染症予防の原則を理解し、感染症予防のための社会的な取り組みと、個人がおこなう対策についての理解	行動観察 ワークシート分析
2	性感染症・エイズとその予防	性感染症、エイズに関する理解とその予防、対策についての理解	行動観察 ワークシート分析
	健康に関する意思決定・行動選択	意志決定・行動選択とそれに影響を与える要因、健康的な意思決定・行動選択を実現する工夫についての理解	行動観察 ワークシート分析
3	健康に関する環境づくり	健康を保持増進するための環境、ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりについての理解	行動観察 ワークシート分析

3. 評価の観点

知識・技能	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。
思考・判断・表現	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

4. 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から総合的に評価する。

5. 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

<p>①授業中の板書事項だけでなく、左ページについても回答し、日常的にノート整理に努めてください。</p> <p>②ノートは各学期末に提出します。</p> <p>③日頃から健康や安全に関心を持ち、生涯を通じる健康を目指しましょう。</p>

令和8年度 芸術科「音楽Ⅰ」シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科 1年次 1～7組 国際人文科 1年次 8組
教科書	高校生の音楽1(教育芸術社)	副教材等	

1 学習の到達目標

音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てる。音楽への感性を高め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばす。音楽の諸活動を通して、音楽文化についての理解を深める。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
第1学期	4	歌唱に親しみ、そのよさを味わって、表現しよう	【歌唱】 ・校歌 ・ヴォイスレコーダ ・「カ・ロ・ミ・オ・ペ・ン」	・日本語に関心を持ち、歌唱曲のよさに触れる。 ・曲の構成などを理解し、楽曲の持つ雰囲気を感じ取って表現する。 ・発声などを含め、個性豊かに自分なりに表現する。 ・読譜力を高め、さまざま音楽表現を行う。 ・仲間と協調し合って音楽を作り上げる。 ・楽曲の特徴を感じ取り、表現を工夫する。	・行動観察 ・学習プリント ・実技試験
	5	いろいろなアンサンブルの形態を知り、表現しよう	【器楽】 ・リズム 「クラッピング・ミュージック」		
				中間考査	
第1学期	6	楽器の響きを味わって表現しよう	【器楽】 ウクレレ ・基本の弾き方 ・弾き語り	・楽器に取り組み、基本的な奏法を身につける。 ・楽器の響きを感じ取り、表現を工夫する。 ・楽器の基本的な奏法を理解して演奏する。 ・曲想に応じて表現する技能を身に付けている。	・行動観察 ・学習プリント ・実技試験
	7	鑑賞	【鑑賞】 ・古代ギリシャ ・中世・ルネサンス ・「木片」(スティーブ・ライヒ)		
			期末考査		
学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
第2学期	9	声の響きを味わって、表現しよう	【歌唱】 ・「カ・ロ・ミ・オ・ペ・ン」 ・ave verum corpus	・外国語に関心を持ち、歌唱曲のよさに触れる。 ・曲の構成などを理解し、楽曲の持つ雰囲気を感じて表現する。 ・アンサンブルの響きを感じ取り、表現を行う。 ・発声などを含め、個性豊かに自分なりに表現する。 ・読譜力を高め、さまざま音楽表現を行う。	・行動観察 ・学習プリント ・実技試験
	10	日本の音色に親しみ、特徴を感じ取ろう	【器楽】 ・箏		
				中間考査	
第2学期	11	日本音楽の良さを感じよう	【器楽】 ・三味線実技講習	・さまざまな楽器に取り組み、基本的な奏法を身につける。 ・日本音楽への興味関心を高め、三味線の基本的な奏法を身につける。	・行動観察 ・学習プリント ・実技試験
	12	鑑賞	【鑑賞】 ・バロック ・箏曲		
			期末考査		

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
第3学期	1	歌唱曲に親しみ、そのよさを味わって、表現しよう	【歌唱】 ・合唱 ・ave verum corpus	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語や外国語に関心を持ち、歌唱曲のよさに触れる。 ・曲の構成などを理解し、楽曲の持つ雰囲気を感じて表現する。 ・発声などを含め、個性豊かに自分なりに表現する。 ・仲間と協調し合って音楽を作り上げる。 ・楽器の響きを感じ取り、表現を工夫する。 ・楽曲の特徴を感じ取り、表現を工夫する。 ・楽器の基本的な奏法を理解して演奏する。 ・曲想に応じて表現する技能を身に付けている。 ・楽曲の構成とアンサンブルとの関係に気づいて鑑賞する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・学習プリント ・実技試験
	2	リコーダーアンサンブルの世界を楽しもう	【器楽】 ・リコーダーアンサンブル		
	3		学年末考査		

3 評価の観点

知識・技術	自己のイメージを持ち、個性豊かに創造的な表現をするための技能を身に付けている。 楽曲の構成など、音楽の諸要素がどのような働きをしているか聴き取っている。
思考・判断・表現	感性を働かせて、音楽の諸要素を知覚し、音楽のよさや美しさを感じ取り、個性豊かに創造的な音楽活動の工夫をする。 音楽の諸要素を理解し、それらが音楽にどのような変化をもたらしているか感じ取っている。
主体的に学習に取り組む態度	音楽を愛好し、音楽文化に関心を持ち、個性豊かに意欲的、主体的に音楽活動を行い、その喜びを味わおうとする。 音楽文化に対する理解を深め、そのよさや美しさを主体的に味わう。

4 評価の方法

【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身に付けるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守ってほしい事項など)

- ・授業の諸活動に意欲を持って取り組み、より豊かな表現を心がけて取り組んでください。
- ・好みや苦手意識に捉われることなく、音楽の諸活動に取り組んでください。
- ・繰り返しの活動が音楽の力を高めます。より良い表現を目指して粘り強く取り組んでください。
- ・表現活動は少なからず人間関係が影響します。みんなが気持ちよく音楽活動ができているか気を配り、切磋琢磨し合いながら高みを目指しましょう。

単位数	2単位	学科・学年・学級	第1年1～8組 選択者
教科書	新・高校生の美術（日本文教出版）	副教材等	

1 学習の到達目標

<p>1 美術における創造的な活動を通して、美術を愛好する心情を育てる。 2 美術を楽しむ態度を通して感性を高め、美術の文化や伝統についての理解を深める。 3 個性豊かな表現の能力と美術作品の美しさを感じ取る鑑賞能力を伸ばす。</p>

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
第1学期	4	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・鉛筆の使い方 手のデッサン 	<ul style="list-style-type: none"> ・美術の学習 ・鉛筆の使い方、グラデーションの出し方 ・手のデッサン 	<ul style="list-style-type: none"> ・一年間通しての美術の学習内容について知る。 ・鉛筆の道具としての特徴の理解を深める。 ・日常的に見ている自身の手をモチーフに鉛筆の特徴を理解しその表現方法を習得する。 	ワークシート（主） 下絵・アイデアスケッチ（発、技） 作品（技） ワークシート（主） 下絵・アイデアスケッチ（発） 作品（技、発、主）
	5				
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・人物画（コンテ） 	<ul style="list-style-type: none"> ・人物画の鑑賞 ・人物クロッキー ・写真を元に人物を描く 	<ul style="list-style-type: none"> ・西洋、東洋の人物画を鑑賞し「人を描く」ということの美について理解を深める。 ・コンテ（木炭コンテ）について特徴を理解しその表現方法を習得する。 ・昨今の肖像権などについて学んだ後、写真を元に人物画を顔中心に描いていく。 	ワークシート（主） 下絵・アイデアスケッチ（発、技） 作品（技） ワークシート（主） 下絵・アイデアスケッチ（発） 作品（技、発、主）
7			期末考査		
学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
第2学期	9	<ul style="list-style-type: none"> ・静物画 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵の具の使い方、色の特色、構図の取り方 ・油絵の具を使つての静物画 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に見ている自身の手をモチーフに鉛筆の特徴を理解しその表現方法を習得する。 ・油絵具の特徴の理解を深め、その表現方法を習得する。 ・完成作品の静物画の鑑賞を通して静物画の美しさを深く味わう心を養う。 	ワークシート（主） 下絵・アイデアスケッチ（発） 作品（技、発、主）
	10				

第2学期			中間考査		
	11	・静物画	・絵の具の使い方、色の特徴、構図の取り方 ・油絵の具を使つての静物画	・日常的に見ている自身の手をモチーフに鉛筆の特徴を理解しその表現方法を習得する。 ・油絵具の特徴の理解を深め、その表現方法を習得する。 ・完成作品の静物画の鑑賞を通して静物画の美しさを深く味わう心を養う。	ワークシート（主） 下絵・アイデアスケッチ（発） 作品（技、発、主）
	12		期末考査		
学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
第3学期	1	・手のデッサン ・銅版画の鑑賞 ・銅版画 ドライポイント	・手のデッサン ・銅版画の作品鑑賞 ・エッチングとは ・作品制作	・2学期の復習 ・日本や西洋の銅版画作品を紹介し、理解を深める。 ・版画の種類を紹介し、理解を深める。 ・銅版画の特徴を理解し、表現方法を習得する。 ・学習した技法を生かし作品を制作する	ワークシート（主） 下絵・アイデアスケッチ（発） 作品（技、発、主）
	2				
	3			学年末考査	

3 評価の観点

知識・技能	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、表現方法を工夫して表している。
思考・判断・表現	感性や想像力を働かせて、主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。
主体的に学習に取り組む態度	美術の創造的活動の喜びを味わい、美術や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。

4 評価の方法

学習への参加態度、意欲、理解度（出席状況、用具の扱い方、忘れ物の状況を含む）、作品の仕上がり状況をもとに総合的に評価します。
--

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身に付けるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守ってほしい事項など）

<ul style="list-style-type: none"> ・美術Iでは、小中学校で学んだ内容を更に深めていきます。用具・用材、構成、時代背景といったさまざまな要素を考えましょう。また、それぞれの画材やモチーフの特徴を理解しながら、自らの意図と効果的な表現方法を目指し、創作活動へと展開してください。個性豊かな作品を期待しています。 ・学期ごとの提出作品が評価の主となります。時間を持って余すことなく、一生懸命に取り組み、妥協のない提出作品を期待します。
--

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科1年23467組 人文科1年8組
教科書	工芸 I (日本文教出版)	副教材等	

1 学習の到達目標

芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。
- (2) 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。
- (3) 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
第1学期	4	オリエンテーション 人間と道具	創作活動としての工芸	教科書を使って「工芸 I」の学習の意義や内容を確認し、1年間の授業内容及び評価の方法を理解する。	
	5	○素材と技法 「染織」	「藍染め」の型染め技法について学ぶ 1 デザイン 2 型紙彫り	【身近な生活と工芸】【社会と工芸】 伝統的な染織の技法を知り、生活の中で作品がもつ意味を学習する。 ・デザインの意味や方法を学び、作品ができる過程を理解する。 ・古典的な道具を使うことにより日本の伝統的な技法の合理性と素晴らしさを学ぶ。 ・型紙の構造を考慮して、美しく使用に耐うる型紙を彫る。(型紙制作)	・ワークシート ・活動の様子 ・ワークシート
			中間考査	なし	
	6		3 紗張り 4 防染糊置き 5 染色 6 水元 7 鑑賞	・漆の代わりとなる塗料と紗と呼ばれる絹の布の特徴を理解し、手早く丁寧に、型紙に紗を張る。 ・糊の材料と特徴を理解し、出羽へらの傾きや力加減に細心の注意を払い、木綿の布に糊を置く。 ・浸す時間に気をつけ、班の仲間と協力しながら慎重に染めて干す。 ・美しい藍に染まったら、糊を洗い流して色止めする。 ・お互いの作品や工芸作品などの見方や感じ方を深める。	・作品提出 ・ワークシート ・活動の様子 ・作品提出
	7		期末考査	なし	
学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
第2学期	9	○素材と技法 「土」	陶芸について主な成形方法と工程について学ぶ。	【社会と工芸】社会的な視点に立って、使う人の願いや心情、生活環境などを考え、心豊かな発想をする。 紐作り、手びねり、たたら板等の技法を用いてマグカップや器を制作する。	
	10		1 アイディアスケッチ 2 成形	・使う人や実際に使用する場面を考えて心豊かな発想をする。アイディアスケッチと設計図を描く。 ・たたら板等の技法を用いて制作する。 (せともの白土)	・ワークシート
			中間考査	なし	
	11		3 素焼き 4 成形 5 素焼き 6 施釉	・陶芸室に運び、陶芸窯の様子を知る。 ・紐造り、手びねり、たたら板等の技法を用いて制作する。(陶土) ・陶芸室に運び、陶芸窯の様子を知る。 ・釉薬の役割と施釉の方法を理解する。施釉する。	・ワークシート

	12		7 絵付け 8 本焼き 9 鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> 粘土の成形だけでなく、表面装飾によっても作品の特徴が出て印象が左右される事を学び、各自の作品に適した装飾を施す 焼成まで工程を理解し、ワークシートで陶芸についての振り返りを行う。 お互いの作品や工芸作品などの見方や感じ方を深める。 	
			期末	なし	
学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
3 学期	1 2 3	○素材と技法 「七宝」	七宝焼きのキーホルダー 1 アイディアスケッチ 型紙の制作 2 デザインを写す 3 銅版の切り出し、成形 4 裏引き 5 銀線を立てる 6 釉薬の盛り付け 7 焼成 8 鑑賞	<p>【社会的な視点に立ったものづくり】社会的な視点に立って使う人や実際に使用する場面を考え、意図に応じて創意工夫し、七宝独特のガラス質の鮮やかな色彩と金属の輝きを融合による作品制作を体験する。七宝に関する知識と、金属加工を学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己の思いなどから心豊かな発想をする。 テーマや課題を把握しデザインする。 銅板に下絵を転写する(カーボン紙使用)。 罫書き針で線を彫る。 手順や技法などを検討して制作をする。 裏引きの意味を理解する。 裏引き後七宝電気炉の上で乾燥させる。 銀線を加工し、銅板に乗せる。 炉上で乾燥さ定着させる。 釉薬の盛り付け方を理解する。 釉薬の盛り付け後は、十分に乾燥させてから焼成する。 お互いの作品や工芸作品などの見方や感じ方を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動の様子 ワークシート ワークシート 活動の様子 作品提出

3 評価の観点

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 意図に応じて制作方法を創意工夫し、創造的に表している。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから心豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に工芸の幅広い創造活動に取り組もうとしている。

4 評価の方法

知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ

(確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

<p>【授業を受けるに当たって守ってほしい事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業は工芸室で行いますので、速やかに移動し、チャイムと同時に始められるよう準備をしてください。 制服が汚れる可能性がある作業のときは、各自判断してジャージやエプロン等の準備をしてきてください。 安全とスムーズな制作のため、作業スペースの整理整頓を心がけましょう。 電動工具を許可なしに使用したり、教室内の物品を無断で持ち出したりしないでください。 材料や工具、作品は、自他のものにかかわらず大切に扱きましょう。 欠席、公欠等があった場合は、早めに次の指示を受けに来てください。 工芸室は飲食禁止です。 提出物は期限を厳守してください。 作品の未完成、未提出は評価がつかない場合があります。 完成作品は、採点后必ず持ち帰ってください。
--

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科 1年123567組 国際人文科 8組 選択者
教科書	書Ⅰ(教育図書)	副教材等	筆・墨等

1 学習の到達目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。

(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。

(3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
第1学期	4	オリエンテーション	用具用材 書の基礎について 調和よく書いてみよう	<ul style="list-style-type: none"> 「書道Ⅰ」学習の意義や内容を確認し、1年間の授業内容及び評価の方法を理解する。 用具・用材の種類や性能を学ぶ。 書写と書道の共通性と相違を理解し、書の世界を知る。 姿勢や執筆法の基本を理解する。 	行動観察 ワークシート 作品途中経過 完成作品 鑑賞
	5	漢字の書の学習	楷書の古典 <ul style="list-style-type: none"> 九成宮醜泉銘 孔子廟堂碑 雁塔聖教序 顔氏家廟碑 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の書体の変遷について学ぶ。 古典の意義や拓本について学ぶ。 楷書古典の臨書学習により、基本的な点画の線質の表し方、用筆法・運筆法を学ぶ。 各古典の表現の違いを理解し、その特徴を時代と人物を通して鑑賞し、臨書する。 	
	6	創作の学習	漢字の書の創作	唐の四大家の書風を参考に漢字作品の創作を行う。	
第2学期	9	漢字の書の学習	行書の古典 <ul style="list-style-type: none"> 蘭亭序 争坐位文稿 風信帖 	<ul style="list-style-type: none"> 行書古典の臨書学習により、行書の特徴を踏まえ用筆法、運筆法を学ぶ。 行書古典の臨書学習により、基本的な点画の線質の表し方、用筆法・運筆法を学ぶ。 王羲之について学ぶ。 古典の表現法を理解し、その特徴を時代と人物を通して鑑賞し、臨書する。 	行動観察 ワークシート 作品途中経過 完成作品 鑑賞
	10				
	11				
	12	創作の学習	条幅作品の創作	<ul style="list-style-type: none"> 習得した技法を活かして作品を創作する。 各自の作品について制作の意図を発表し、鑑賞しあう。 	

第3学期	1	仮名の書の学習	仮名の成立 平仮名 変体仮名 仮名の古典 ・蓬萊切 ・高野切第三種	<ul style="list-style-type: none"> ・仮名の成立と変遷、種類について学ぶ。 ・仮名の書独特の筆づかいや、基本用筆を習得する。 ・仮名の基本用筆やリズムを生かし、単体を習得する。 ・仮名の連綿を練習し変体仮名を習得する。 ・習得した技法を活かした古典の臨書作品を完成させる。 	行動観察 ワークシート 作品途中経過 完成作品 鑑賞
	2	漢字仮名交じりの書の学習	意図に応じた表現 自分の表現を目ざして 構成を考える 表現と鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字と仮名の調和と用筆の基本について理解する。漢字仮名交じり文の書独特の画面構成を習得する。 ・漢字仮名交じりの書を鑑賞し、感じたことを話し合い、自らの鑑賞力を深める。 ・創作の準備と手順を知る。 ・自己の意図やねらいを達成するために、漢字や仮名の古典を生かした表現を工夫する。 ・自らの思考や感動を表現できる語句を選び、漢字仮名交じりで表現方法を工夫し、作品を制作する。 ・文字と余白の関係を理解し、全体構成を考えた表現を身につける。 ・各自の作品について制作の意図を発表し、鑑賞しあう 	
	3				

3 評価の観点

知識・技術	<ul style="list-style-type: none"> ・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 ・書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。 ・身に付けた知識と技能を組み合わせ、効果的に表現している。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりしている。 ・書的美を構成する要素を分析し理解することで、意図に即した表現をしている。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。 ・特定の単元で身に付けた知識と技能について必要に応じて振り返り、他の単元においても継続して活用しようとしている。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身に付けるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守ってほしい事項など)

中学校までの国語科書写と高校の芸術科書道では、共通する部分もあれば異なる部分もあります。先入観にとらわれず、毎時間の学習内容を正確に理解するよう努めましょう。また、古典や世界史、日本史など他の教科科目と関連づけて学ぶ姿勢を大切にしてください。
道具の扱い方やポートフォリオ(作品ファイル)の管理も適切に行ってください。

令和8年度 外国語科「英語コミュニケーションⅠ」シラバス

単位数	4単位	学科・学年・学級	普通科 1年 1～7組
教科書	Stellar ENGLISH COMMUNICATION I (開隆堂)	副教材等	Stellar Iワークブック (開隆堂)、Evergreen 総合英語、English Grammar 23 Lessons Workbook (いっずな書店)、英単語Tagert 1900 (旺文社)、Focus on Listening Basic (エミル出版)、NEWSBREAKS for Basic (エミル出版)

1 学習の到達目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う

2 学習の計画

第1学期学習指導計画

月	育成する資質能力 (CAN-DO記述)	学習項目 (教材名等)	学習内容や学習活動 (言語活動等)	評価の観点	領域					評価項目数	主な評価規準 (評価方法)
					聞	読	取	発	書		
4・5	よく使われるクラスルームイングリッシュや、当人に向かってゆっくり尋ねられた身近な話題についての質問を理解することができる	Lesson 1 ～ Lesson 2	・帯活動 (ウォーミングアップ) などを通して、聞く力の向上を目指す ・授業中のリスニングテスト	知	○	○	○	○	○	6	・授業内の取り組み ・パフォーマンステスト ・授業内の小テスト ・提出物、課題
	一部の重要語彙を知っていれば、1年生用の教科書や関連する記述を初見で読んでも、概要をおおまかに理解することができる (WPM80)		・文を読んで初見でおおまかに内容をとらえる練習をする ・与えられたキーワードを見ながら要約を口頭で伝え、それを書く ・授業中の単語・リーディングテスト	知	○	○	○	○	6		
	ごく身近な話題の会話を、相づちを打ったりわからないところを何度も聞き返したりしながら、友達と協力して30秒以上続けることができる。また、自己紹介や自分の好きなものについて即興で話すことができる		・グループワークで感想を口頭で伝え合う ・帯活動 (ウォーミングアップ) などを通して、表現力の向上を目指す ・与えられたトピックについてプレゼンテーションやスピーチを行う	知	○	○	○	○	6		
	自己紹介や自分の好きな物について、短い文章を、相手にわかりやすく書くことができる		・与えられたトピックについて感想やエッセイを書く ・授業中のライティングテスト	知	○	○	○	○	3		
中間考査				知	○	○	○	○	6	・授業内容の理解度 ・初見問題の正答率	
6・7	よく使われるクラスルームイングリッシュや、当人に向かってゆっくり尋ねられた身近な話題についての質問を理解することができる。	Lesson 3 ～ Lesson 4	・帯活動 (ウォーミングアップ) などを通して、聞く力の向上を目指す ・授業中のリスニングテスト	知	○	○	○	○	6	・授業内の取り組み ・パフォーマンステスト ・授業内の小テスト ・提出物、課題	
	一部の重要語彙を知っていれば、1年生用の教科書や関連する記述を初見で読んでも、概要をおおまかに理解することができる (WPM80)		・文を読んで初見でおおまかに内容をとらえる練習をする ・与えられたキーワードを見ながら要約を口頭で伝え、それを書く ・授業中の単語・リーディングテスト	知	○	○	○	○	6		
	ごく身近な話題の会話を、相づちを打ったりわからないところを何度も聞き返したりしながら、友達と協力して30秒以上続けることができる。また、自己紹介や自分の好きなものについて即興で話すことができる		・グループワークで感想を口頭で伝え合う ・帯活動 (ウォーミングアップ) などを通して、表現力の向上を目指す ・与えられたトピックについてプレゼンテーションやスピーチを行う	知	○	○	○	○	6		
	自己紹介や自分の好きな物について、短い文章を、相手にわかりやすく書くことができる		・与えられたトピックについて感想やエッセイを書く ・授業中のライティングテスト	知	○	○	○	○	3		
期末考査				知	○	○	○	○	6	・授業内容の理解度 ・初見問題の正答率	

第2学期学習指導計画

月	育成する資質能力 (CAN-DO記述)	学習項目 (教材名等)	学習内容や学習活動 (言語活動等)	評価の観点	領域					評価項目数	主な評価規準 (評価方法)
					聞	読	取	発	書		
9・10	視覚的補助等があれば、オーラル・イントロダクションや、クラスメイトのスピーチやプレゼンテーションの内容を、おおまかに理解することができる	Lesson 5 ～ Lesson 6	・オーラル・イントロダクションや、クラスメイトのスピーチやプレゼンテーションを聞く ・授業中のリスニングテスト	知	○	○	○	○	○	6	・授業内の取り組み ・パフォーマンステスト ・授業内の小テスト ・提出物、課題
	1年生用の教科書や関連する記述を初見で読んで、キーワードを取り出すことができる (WPM90)		・文を読んで初見でおおまかに内容をとらえる練習をする ・キーワードを見ながら要約を口頭で伝え、それを書く ・授業中の単語・リーディングテスト	知	○	○	○	○	6		
	フォーマットがあれば、聞いたり読んだりしたことについて友達と感想を言い合うことができる。また、教科書の内容の一部を、教科書の表現を使いながら即興で伝えることができる		・グループワークで感想を口頭で伝え合う ・帯活動 (ウォーミングアップ) などを通して、表現力の向上を目指す ・与えられたトピックについてプレゼンテーションやスピーチを行う	知	○	○	○	○	6		
	教科書の内容や関連する記述についての数文程度の感想や、自分の経験に基づいたスピーチの原稿を、SVや時制に注意しながら書くことができる		・与えられたトピックについて感想やエッセイを書く。 ・授業中のライティングテスト	知	○	○	○	○	3		
中間考査				知	○	○	○	○	6	・授業内容の理解度 ・初見問題の正答率	

11・12	視覚的補助等があれば、オーラル・イントロダクションや、クラスメイトのスピーチやプレゼンテーションの内容を、おおまかに理解することができる。	Lesson 7 ～ Lesson 8	・オーラル・イントロダクションや、クラスメイトのスピーチやプレゼンテーションを聞く ・授業中のリスニングテスト	知	○	○	○	○	○	6	・授業内の取り組み ・パフォーマンステスト ・授業内の小テスト ・提出物、課題
	1年生用の教科書や関連する記述を初見で読んで、キーワードを取り出すことができる。(WPM90)		・文を読んで初見でおおまかに内容をとらえる練習をする ・キーワードを見ながら要約を口頭で伝え、それを書く ・授業中のボキャブラリーテスト	知	○	○	○	○	6		
	フォーマットがあれば、開いたり読んだりしたことについて友達と感想を言い合うことができる。また、教科書の内容の一部を、教科書の表現を使いながら即興で伝えることができる。		・グループワークで感想を口頭で伝え合う ・常活動(ウォームアップ)などを通して、表現力の向上を目指す ・与えられたトピックについてプレゼンテーションやスピーチを行う	知	○	○	○	○	6		
	教科書の内容や関連する記述についての数文程度の感想や、自分の経験に基づいたスピーチの原稿を、SVや時制に注意しながら書くことができる。		・与えられたトピックについて感想やエッセイを書く。 ・授業中のライティングテスト	知	○	○	○	○	3		
期末考査			知	○	○	○	○	6	・授業内容の理解度 ・初見問題の正答率		

第3学期学習指導計画

月	育成する資質能力 (CAN-DO記述)	学習項目 (教材名等)	学習内容や学習活動 (言語活動等)	領域					評価項目 数	主な評価規準 (評価方法)	
				知	思	態	聞	読			取
1・2・3	視覚的補助等があれば、オーラル・イントロダクションや、クラスメイトのスピーチやプレゼンテーションの内容を、おおまかに理解することができる。	Lesson 8 ～ Lesson 9	・オーラル・イントロダクションや、クラスメイトのスピーチやプレゼンテーションを聞く ・授業中のリスニングテスト	知	○	○	○	○	○	6	・授業内の取り組み ・パフォーマンステスト ・授業内の小テスト ・提出物、課題
	1年生用の教科書や関連する記述を初見で読んで、キーワードを取り出すことができる。(WPM90)		・文を読んで初見でおおまかに内容をとらえる練習をする ・キーワードを見ながら要約を口頭で伝え、それを書く ・授業中の単語・リーディングテスト	知	○	○	○	○	6		
	フォーマットがあれば、開いたり読んだりしたことについて友達と感想を言い合うことができる。		・グループワークで感想やサマリーを口頭で伝え合う	知	○	○	○	○	3		
	教科書の内容の一部を、教科書の表現を使いながら即興で伝えることができる。		・与えられたトピックについてプレゼンテーションやスピーチを行う	知	○	○	○	○	3		
教科書の内容や関連する記述についての数文程度の感想や、自分の経験に基づいたスピーチの原稿を、SVや時制に注意しながら書くことができる。	・与えられたトピックについて感想やエッセイを書く ・授業中のライティングテスト	知	○	○	○	○	3				
学年末考査				知	○	○	○	○	6	・授業内容の理解度 ・初見問題の正答率	

評価の観点	聞くこと	読むこと	話すこと (やり取り)	話すこと (発表)	書くこと
知識・技能	英語の特徴やきまりに関する事項を理解し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について話された文等を聞いて、その内容を捉える技能を身に付けている。	英語の特徴やきまりに関する事項を理解し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について書かれた文等を読んで、その内容を捉える技能を身に付けている。	英語の特徴やきまりに関する事項を理解し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して伝え合う技能を身に付けている。	英語の特徴やきまりに関する事項を理解し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話して伝える技能を身に付けている。	英語の特徴やきまりに関する事項を理解し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して書いて伝える技能を身に付けている。
思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を聞き取り、話し手の意図や概要、要点を捉えている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を読み取り、書き手の意図や概要、要点を捉えている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりしている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話して伝えている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して書いて伝えている。
主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で話されることを聞こうとしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で書かれたことを読もうとしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて伝え合おうとしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて話そうとしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、読み手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて書こうとしている。

評価の方法	知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。
-------	---

<p>担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英語でコミュニケーションがとれるようになるために、自ら積極的に英語を使う練習をしましょう。 ・和訳に頼らず、英語を英語のまま理解する力を身につけましょう。 ・辞書やICT機器など、使えるツールは積極的に活用しましょう。 ・「英語で何ができるようにになりたいか」を考え、自分なりの目標を設定して学習に取り組みましょう。
--	--

令和8年度 情報科 「情報Ⅰ」 シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科 1年1組～7組 国際人文科 8組
教科書	高校情報Ⅰ 新訂版（実教出版）	副教材等	事例でわかる情報モラル&セキュリティ30テーマ

1 学習の到達目標

<p>情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めるようにする。</p> <p>(2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。</p> <p>(3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。</p>
--

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
1 学期	4	オリエンテーション	・高校で扱う ICT 機器の使い方学ぶ		<ul style="list-style-type: none"> ・実技 ・課題 ・提出物 ・定期考査 <p style="text-align: center;">等</p>
	5	第1章	1 情報と情報社会 2 問題解決の考え方 3 法規による安全対策 4 個人情報とその扱い 5 知的財産権の概要と産業財産権 6 著作権	<ul style="list-style-type: none"> ■情報の特性を考える ■メディアの特性を考える ■問題解決の考え方を身につける ■著作権侵害について考える 	
	6	第3章 デジタル	10 デジタル情報の特徴 11 数値と文字の表現	<ul style="list-style-type: none"> ■アナログとデジタルの違い、2進法と情報量の単位との関係を理解する ■コンピュータによる情報の表現のしくみを理解する 	
	7		期末考査		
学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
2 学期	9	第2章 情報デザイン	7 コミュニケーションとメディア 8 情報デザインと表現の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ■メディアの発達、コミュニケーションの形態や特性を理解する ■情報機器のパーソナル化とソーシャルメディアの関係性を理解する ※文書作成、プレゼン、表計算ソフトの基本的な操作方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実技 ・課題 ・提出物 ・定期考査 <p style="text-align: center;">等</p>
	10		ADVANCE プレゼンテーション		
	11	第5章 問題解決	25 データの収集と整理 26 ソフトウェアを利用したデータの処理 27 統計量とデータの尺度	<ul style="list-style-type: none"> ■データの活用が問題解決に役立つことを踏まえ、データ収集の方法を理解する ■数値データ、テキストデータの分析方法を理解する 	
	12	第4章 ネットワーク	17 ネットワークとプロトコル 18 インターネットの仕組み 23 個人による安全対策 24 安全のための情報技術	<ul style="list-style-type: none"> ■コンピュータネットワークの構成を理解する ■データ伝送のしくみとプロトコルの役割を理解する ■暗号化などの情報セキュリティを高める方法について理解する 	
	12		学年末考査		

学期	月	单元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
3 学期	1	第3章	13 音の表現 14 画像の表現 15 コンピュータの構成と動作 16 コンピュータの性能	■ コンピュータの基本的な構成を理解する ■ CPUによる演算のしくみを理解する ■ アルゴリズムの基本構造を確認し、図や表で表現する方法を知る ■ 変数、データ型、演算子、関数などプログラムを構成する要素を確認する ■ 配列など、プログラミングでデータを効率よく利用する方法を理解する ■ グループ分けプログラムの作成手順を見ながらプログラミングの方法を理解する	・実技 ・課題 ・提出物 ・定期考査 等
	2	第6章 プログラミング	ADVANCE データの圧縮と効率化 30 アルゴリズムとプログラミング 31 プログラミングの基本 32 配列 33 関数 34 探索のプログラム 35 整列のプログラム		
	3		学年末考査		

3 評価の観点

知識・技能	情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識と技能を身に付け、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。
思考・判断・表現	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用している。
主体的に学習に取り組む態度	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報及び情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。

4 評価の方法

<p>「定期考査」、「授業内プリントの取組・提出」、「授業内課題の取組・提出」、「授業態度」を総合的に評価します。</p> <p>定期考査は1学期期末、2学期期末、学年末考査の年3回実施します。</p> <p>定期考査は配点100点(知識・技能60点、思考・判断・表現40点)で実施します。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度に関する=(知識・技能)と(思考・判断・表現)の平均+平常点</p> <p>平常点=「授業内プリントの取組・提出」、「授業内課題の取組・提出」、「授業態度」</p> <p>授業態度について、授業中の居眠りや怠慢に関しては、限度を超えたと授業担当者が判断した際に、注意1回につき1点減点とします。</p>

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

<p>基本的に、難しい問題はありません。基礎的な数学力・英語力が必要な範囲も存在する。</p> <p>教科として 『情報』=『数学』×『英語』×『社会』 のような感覚に近いです。</p>
